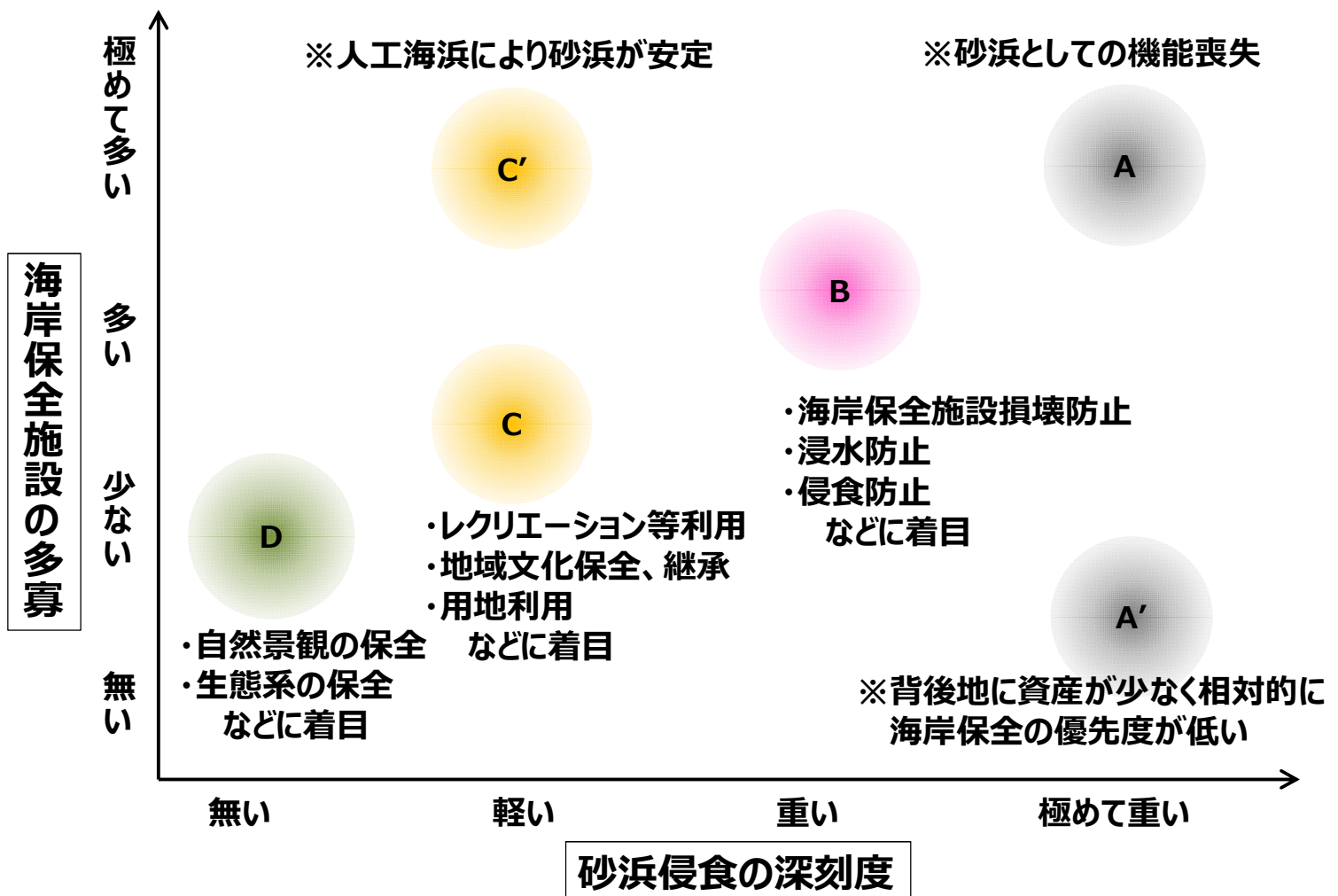


砂浜の類型化について（素案）

- 砂浜の量的状態（砂浜侵食の深刻度）を横軸に、質的状态（離岸堤や突堤などの海岸保全施設の多寡）を縦軸にとりそれぞれの砂浜の状態をプロットした。

（砂浜の分類イメージ）

- 砂浜A 侵食が著しく進んでおり、砂浜幅も狭く防護機能に支障を及ぼしている。侵食対策事業により砂浜の回復を図る必要がある。
- 砂浜B 侵食がある程度進み、環境機能や利用機能が低下している。防護機能は有しているため、砂浜を海岸保全施設に指定して適切に管理する。
- 砂浜C 一部人工構造物はあるが、砂浜幅も広く残っており多くの利用がある。まちづくりと一体となった砂浜の積極的かつ適正な活用を図る。
- 砂浜D 自然な状態の砂浜が残っており、生態系及び景観上重要である。砂浜の保全を図るとともに、自然環境や景観へ配慮しつつ利用を図ることも考えられる。



砂浜の類型化と保全区域、保全施設の指定（素案）

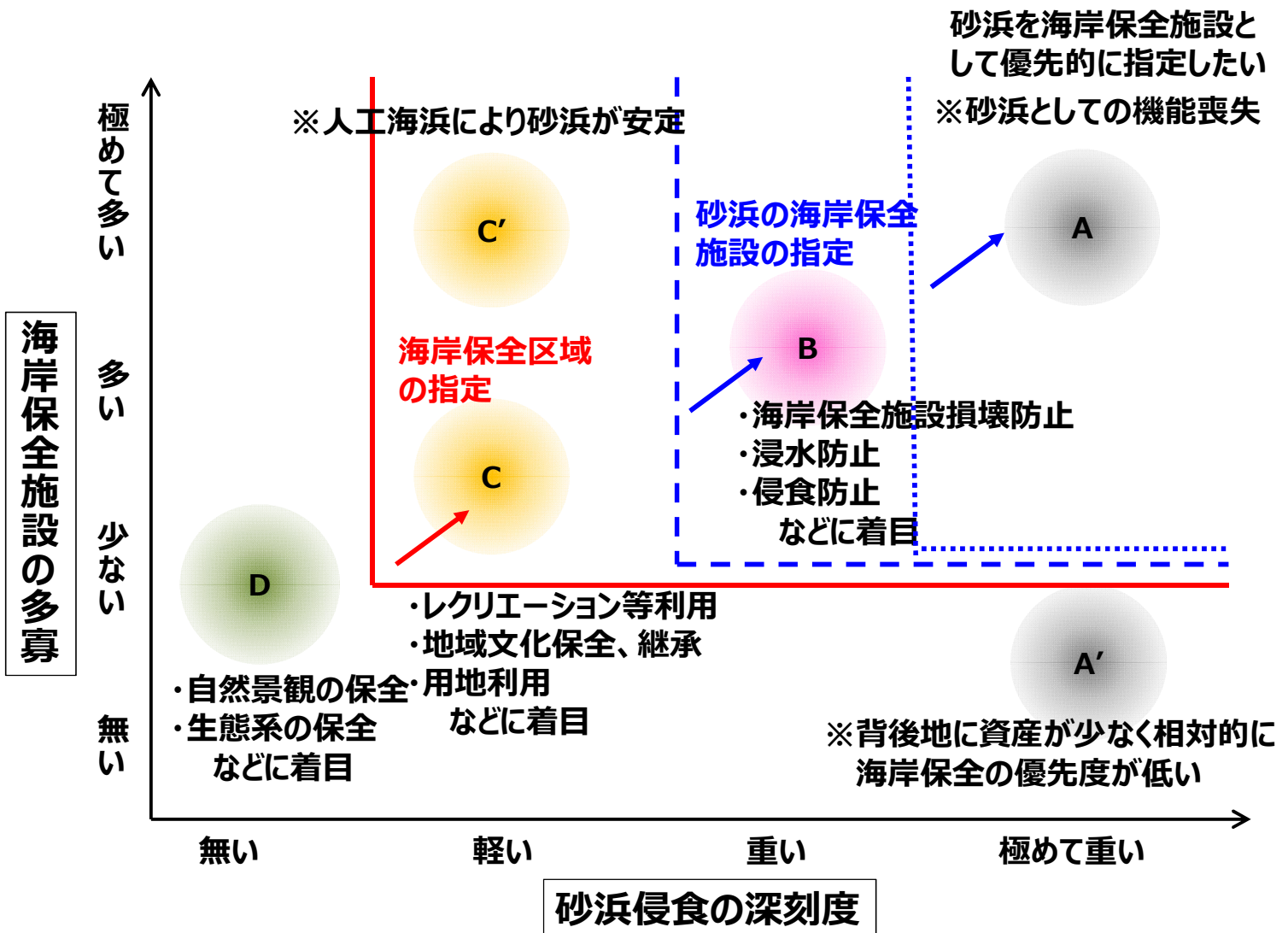
- 類型化された砂浜に応じて想定される海岸保全区域、海岸保全施設の指定の範囲のイメージを図に示した。

(海岸保全区域を指定すべき砂浜のイメージ)

海岸保全の必要性の低い（又はない）、砂浜D（A'）を除いた砂浜において、指定。

(海岸保全施設として指定すべき砂浜のイメージ)

侵食がある程度進み、環境機能や利用機能が低下しているものの、防護機能を有し、長期的に安定した状態を保つことができる砂浜B（又は砂浜A）を海岸保全施設に指定して適切に管理する。



砂浜の類型化とモニタリングの考え方（素案）

- 類型化された砂浜に応じて想定されるモニタリングの実施レベルのイメージを図に示した。

(砂浜の分類に応じたモニタリングイメージ)

砂浜A

高頻度、高精度

- 巡視：定期的（週一回、月一回等）
または高波浪等のイベントの後に定点撮影を実施
- 測量：最低年一回または高波浪等のイベントの後に
ナローマルチビーム等により深淺測量を実施

砂浜B

中頻度、中精度

- 巡視：最低1年に一度、定点撮影を実施
- 測量：1年に一度、汀線測量を実施（砂浜幅の把握）

砂浜C, D (、A')

低頻度、低精度

- 巡視又は写真判読：1年に一度、目視で汀線位置を確認又は衛星
画像等により汀線位置を確認

